平成12年6月22日
経済企画庁総合計画局

「世界における知的活動拠点研究会」　中間とりまとめのポイント

1．趣旨

「経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針」（平成 11 年 7 月経済審議会答申・閣議決定）で、「世界の知的活動拠点」を形成するための包括的なプログラムの策定に取り組むとされたことを受け、本研究会では、プログラム策定に資するための検討を行い、今回の中間とりまとめでは、必要な施策体系の枠組みと主要な具体的方策を提示。本中間とりまとめの成果は、経済審議会（フォローアップ）報告書に反映される予定。

2．ポイント

多様な知恵の時代への移行、ネットワーク型社会の形成とグローバリゼーションの進展の下で、世界の変化や進歩のスピードに対応し、我が国の経済的・文化的・知的豊かさの増進と世界への貢献を実現するためには、我が国に『世界の知的活動拠点』を形成し、『得意分野で世界に発信し、世界から最新の知恵・情報を牽引すること』が不可欠。

このためには、≪新しい知恵の創造による魅力あるコンテンツの創出 → 世界への情報発信と世界からの人材や情報の牽引 → 知的交流の促進 → さらなる新しい知恵の創造による魅力あるコンテンツの創出≫の好循環が必要であることから、

① 魅力あるコンテンツの創出
② 世界への情報発信
③ 知的交流の促進

の 3 本柱で環境整備を推進すべき。

(1) 魅力あるコンテンツの創出

源泉に関しては、

①大学等における魅力的な研究開発環境の創出
②知恵を生かした独創的なビジネスの積極的展開
③日本に固有の伝統文化や現代文化の積極的活用

が重要。この際、戦略的な取組みとして、

④国際競争力のあるコンテンツを生み出し得る分野への重点化

が不可欠。さらに、知恵を創造する担い手を確保するため、

⑤創造性を有する人的資源の育成

が必要。

(2) 世界への情報発信

コミュニケーション、言語（英語）、ツール（インターネット）及びコンテンツの編集に関して国際的情報発信能力を強化する戦略的取組みが必要。

(3) 知的交流の促進

世界水準の多様な知の交流を促進し、刺激し合うことにより新たな知恵を創出するため、研究者等の国際的な交流を促進する環境整備とともに、インターネット上の知の交流を促進する環境整備を推進すべき。

３．主要な具体的方策

(1)　魅力あるコンテンツの創出

①　大学等における魅力的な研究開発環境の創出

大学等の研究開発において普遍的な人類共通の知的資産や新たなビジネスの源泉となる技術シーズ等を創造するため、評価、競争、研究資金、産学官連携等の面で魅力的な研究開発環境を創出。

- ピア・レビュー（当該専門分野の研究者による評価）や大学評価・学位授与機構による大学の研究活動に対する客観性の高い評価等知恵の創造に対する評価の充実
- 次代を担うポストドクター層の充実と公開制の高い公募制や任期制の導入促進等による競争的環境の整備
- 研究予算の重点化と奨学寄附金、受託研究費等の様々な外部資金の積極的導入
- 規制緩和等による産学官人材交流の強化
- インセンティブ措置等による研究成果の特許化の促進

②　知恵を生かした独創的なビジネスの積極的展開

知恵を企業戦略の柱とする独創的なビジネスの積極的展開を通じて、新たな付加価値の源泉となる人材や情報を世界から牽引できる魅力的なコンテンツを創出していくため、多様な主体が積極的に展開できるような環境整備を推進。

- 新規参入や異業種連携を容易にする規制緩和
- ベンチャー企業向け資金供給システムの拡充
- 研究成果の事業化を促進する産学の連携強化
- 電子商取引の本格的普及
- ベンチャーのスタートアップに必要な資金や人材等を提供するインキュベーター事業の推進

③　固有の文化の積極的活用

伝統文化・現代文化の体系的なデジタルアーカイブ化や博物館等による日本の全体像が理解されるような展示（「ジャパン・ミュージアム」）等により、日本という国の多様な姿を分かりやすい形で体系的に世界に伝え得る「日本経済文化系統樹」ともいうべきコンテンツを創出。

④　国際競争力のあるコンテンツを生み出し得る分野への重点化

- 環境問題等世界共通の課題
- モバイル等我が国が世界の最先端の一躍を担っている技術開発
- 我が国固有の文化

等、国際競争力のあるコンテンツを生み出し得る分野への重点的取組み。

⑤　創造性を有する人的資源の育成

知恵の創造の担い手を育成するため、初等教育段階からの教育の充実と、学校外社会人の積極的活用や学外における学修・活動の促進等を通じて、独創性を重視する教育環境や起業家精神を涵養する教育環境を整備。

(2)　世界への情報発信

①　コミュニケーション能力の強化と異文化との共存

初等教育段階からの教育の充実等により、自分の考えを論理的に説明し、相手に理解させる、コミュニケーション能力を強化。また、国際的なコミュニケーションの円滑化のために、異文化との共存を推進。

②　英語力の強化

初等中等教育における英語教育の充実、大学における英語による授業の実施割合の増加等により、英語を使いこなせる国民を飛躍的に増加。また、大学院における英語による授業の実施等を積極的に進めることにより、専門分野における英語での発信能力を向上。

③　インターネット利用環境の整備

誰もが自由自在に使いこなせるよう、情報基盤の高度化、リテラシーの向上、インターネット通信料金の低廉化・定額化、安全性・信頼性の向上等のための施策を推進。

④　世界からのアクセスを促進するコンテンツの編集

アグリゲータに対する多様な評価を通じて、コンテンツの補充や再構築が自律的に行われるようにすることや、物語性や関係性を有するようにコンテンツを編集することにより、その魅力を一層高め、世界からのアクセスをさらに促進。

(3)　知的交流の促進

①　将来有望な若い人材も含む優れた外国人研究者の受入れ促進

- 研究の質の向上
- 国際的な水準の処遇と雇用条件に関する国立大学等の自主的で臨機応変な交渉の確保
- 外国人が生活しやすい生活環境の整備
- 永住者の在留資格の運用の検討

②　留学生の受入れ促進

- 教育の質の向上
- 一層の経済的支援
- 卒業後の就職支援

③　国際共同研究等の推進

国際共同研究、研究成果の海外発表や若手研究者の海外派遣を積極的に推進。

④　国際的な知的交流の場の提供

世界的な著名人・知識人による国際的な知的交流がなされる会議や学習・議論の場を提供。また、日本に行けばアジアの全体像が分かるような「アジア研究の拠点化」を目指すべき。

⑤　インターネット上の知の交流

インターネット上の「参加型社会」において、知恵の創造を誘発するような「ネットワークの中のネットワーク」を築くためのマッチング技術を向上。

世界における知的活動拠点研究会　委員名簿

	（氏名）	（現　職）
【座長】	伊藤元重（いとうもとしげ）	東京大学 大学院 経済学研究科 教授
	伊藤穰一（いとうじょういち）	株式会社 ネオテニー 代表取締役社長 株式会社 インフォシーク 取締役会長
	植田憲一（うえだけんいち）	電気通信大学レーザー新世代研究センター センター長・教授
	加藤秀樹（かとうひでき）	構想日本 代表 慶應義塾大学 総合政策学部 教授
	川島一彦（かわしまかずひこ）	東京工業大学 工学部 教授
	北原保之（きたはらやすゆき）	ＡＯＬジャパン 株式会社 常務取締役
	椎野孝雄（しいのたかお）	株式会社 野村総合研究所 リサーチ・コンサルティング事業本部長
	杉山知之（すぎやまともゆき）	デジタルハリウッド 株式会社 代表取締役社長
	田中明彦（たなかあきひこ）	東京大学 東洋文化研究所 教授
【座長代理】	林紘一郎（はやしこういちろう）	慶應義塾大学 メディア・コミュニケーション研究所 教授
	グレン･S･フクシマ	アーサー・Ｄ・リトル（ジャパン）株式会社 代表取締役社長
	松岡正剛（まつおかせいごう）	編集工学研究所 所長 帝塚山学院大学 教授

（敬称略、五十音順）

世界における知的活動拠点研究会　審議経過

第１回　1 月 28 日（金）

○研究会の趣旨・検討事項について

第２回　3 月 2 日（木）

○「世界の知的活動拠点」となるための環境整備について～その１

第３回　3 月 15 日（水）

○「世界の知的活動拠点」となるための環境整備について～その２

第４回　4 月 14 日（金）

○「世界の知的活動拠点」となるための環境整備について～その３
○中間とりまとめ(案)について

第５回　5 月 17 日（水）

○中間とりまとめと今後の予定について

「世界の知的活動拠点」の形成

・多様な知恵の時代への移行
・ネットワーク型社会の形成
・グローバリゼーションの進展
の下で、

世界の変化や進歩のスピードに対応し、『経済的・文化的・知的豊かさの増進』と『世界への貢献』を実現するためには、

『**世界の知的活動拠点**』を形成し、『**得意分野で世界に発信し、世界からの最新の知恵・情報を牽引**』することが不可欠。

3本柱の好循環による「世界の知的活動拠点」の形成

魅力あるコンテンツの創出

【必要な施策】
①大学等における魅力的な研究開発環境の創出
②知恵を生かした独創的なビジネスの積極的展開
③日本に固有の伝統文化や現代文化の積極的活用
④国際競争力のあるコンテンツを生み出し得る分野への重点化
⑤創造性を有する人的資源の育成

世界への情報発信

【必要な施策】
①コミュニケーション能力の強化と異文化との共存
②英語力の強化
③インターネット利用環境の整備
④世界からのアクセスを促進するコンテンツの編集

知的交流の促進

【必要な施策】
①将来有望な若い人材も含む優れた外国人研究者や留学生の受入れ促進
②国際共同研究等の推進と国際的な知的交流の場の提供
③インターネット上の知の交流を促進する環境整備